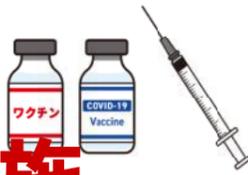


7月8日
~7月21日

目前の感染爆発封じ込めるために

県内14市15町と三重県あてに「緊急アンケート」実施

通所・訪問介護従事者、保育学童・障害・教育など
エッセンシャルワーカーへの「ワクチン優先接種」



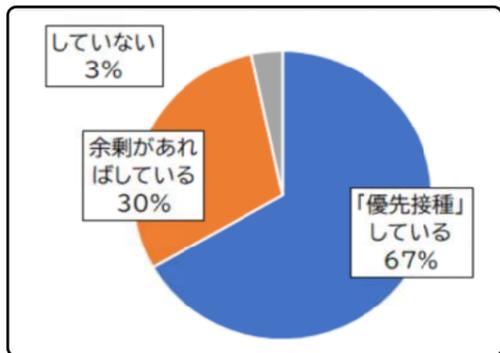
過半数超の18市町で実施

「ワクチン供給を計画通りに」⇒22自治体

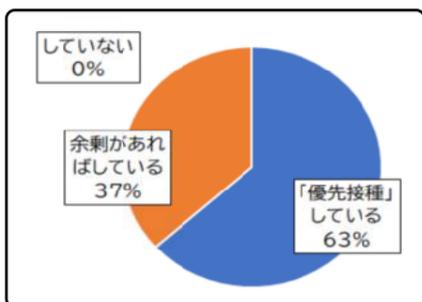
「管内閣のコロナ対策」⇒「適切」3自治体、「不十分」3自治体

過半数超の17自治体が「どちらともいえない」

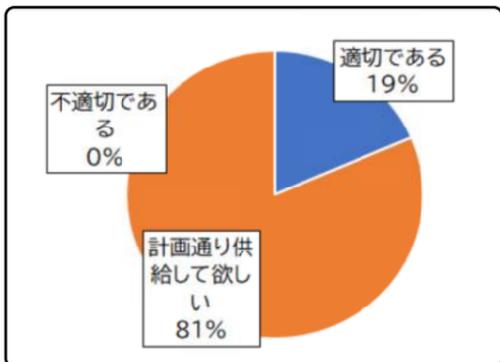
問1、通所・訪問介護従事者への自治体独自の「ワクチン優先接種」について。



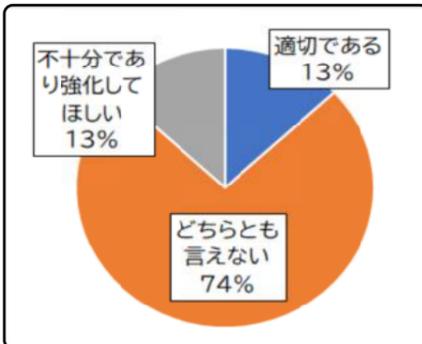
問2、医療・介護に続いて、保育・学童、教育などエッセンシャルワーカーの人たちが安心して働けるよう、積極的に「優先接種」していますか。



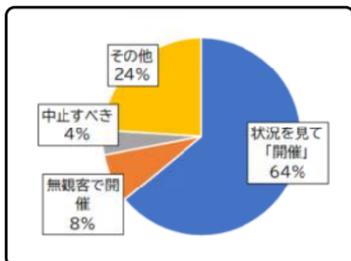
問3、ワクチン供給について国が進める施策は適切ですか。



問5、管内閣のコロナ対策について、どのように思われますか。



問4、東京オリンピック・パラリンピックの直後、「三重とこわか国体(9/24~10/5)・とこわか大会(10/23~25(全国障害者スポーツ大会))が開催されます。開催の是非も関係者で議論されていますが、同じように感染拡大が懸念されます。「開催」「中止」など率直なご意見をお聞かせください。



みえ労連

2021年8月 第67号

三重県労働組合総連合

〒514-0015 三重県津市寿町7-50

みえ平和と労働会館

TEL 059-223-2615 FAX 059-223-4495

http://mieroren.labor.net.jp/

みえ労連の憲法キャラバン



○みえ労連は、過去12回「春の憲法キャラバン」を実施してきました。

憲法の各条項に沿って具体的な事前アンケートを送り三重県副知事・半数の市長町長(副)・総務部長など幹部職員と対話してきました。その取り組みは「要求・回答・交渉」ではなく、「対話・懇談・自治体行政に役立つ」取り組みに心がけています。

今までに取り組んだ憲法条文は以下の通りです。
憲法第9条(戦争放棄:安保法制)、13条(幸福追求権:災害対策・原発再稼働)、25条(生存権保障:医療介護・保育)、26条(教育の機会均等)、27条(労働者の権利)、第8章(地方自治)などを具体的設問(例:9条「集团的自衛権行使容認に賛成ですか?」)でお聞きしました

○昨年(2020)の第13回はコロナ禍の中、例年の憲法キャラバンを休止し、マスク不足の中「人類は新型コロナに負けない」との心意気で、5月初め県内感染症指定の7病院院長と厚生連病院へ「マスク1万枚(50万円)」を贈呈、感謝されました。

○本年(2021)の第14回は感染拡大が広がる中、3月~6月、3地域で介護事業所調査を実施し、その結果をもとに自治体への要請行動にとりくみました(2面)。そして7月には憲法キャラバンに代えて全自治体の『ワクチン接種』『コロナ対策』緊急FAXアンケートに取り組みました(1面)。ご一読ください。

厚労省が無責任にも「自治体まかせ」にする中、アンケートでは三重県下の半数をこえる自治体18市町(67%)で、ワクチンの優先接種(通所・訪問介護従事者)が実現していることが明らかになりました。しかし菅内閣が「二正面作戦」として打ち出したワクチン接種ですが、計画通りすすんでいません。自治体からは「計画通り供給してほしい」が圧倒的(81%)です。菅内閣のコロナ対策について「適切である」は、わずか13%でした。とこわか国体については、感染拡大の中、まだ先が見えていない状況です。

自治体から政府に対して意見表明を遠慮される自治体(コメントなし)は、7自治体ありました。ご迷惑をおかけすることがないようにします。この新聞以外で公表することはありません。ありがとうございました。

いのちと尊厳を守る政治へ

7月24日(土)午後、津市でみえ市民連合連絡会主催の講演会「いのちと尊厳を守る政治へ」が行われました。講演したのは上智大学教授・中野晃一さん。緊急事態宣言下の東京からリモートでの参加でした。

講演内容は左の中日新聞記事が的確にまとめてくれています(さすが記者さんです)のでご覧ください。
秋には必ず行われる総選挙、カギはいかに投票率を上げることか。中野さんは強調しました。

選挙	投票率	自民党	
		絶対得票率	議席(議席率)
2009衆	69.3	18.1	119(24.3) 自民惨敗
2012衆	59.3	16	294(61.3) 自民復活
2014衆	52.7	17	290(61.1)
2017衆	48.8	17.5	281(60.4)

上の表は講演の中で中野さんが紹介した資料です。全有権者に占める自民党の絶対得票率は自民党が負けて下野した時は18%でしたが、3年後に復活した時は16%でした。減っているのです。減っているのになぜ勝ったか、それは投票率が10ポイントも下がったからです。その後も投票率は下がり続けています。「政治なんて誰がやっても同じ」と、あきらめて投票に行かない国民が半数もいるおかげで、自民党は多くの議席を得ているのです。



投票率を上げること成功したら野党は勝てる。そのためには野党が一つのかたまりになること、そして自民・公明とは違う魅力的な政策をくつきりと打ち出すこと、ここにかかっていると中野さんは力を入れました。
みえ市民連合連絡会はこの日に向けて各野党を訪問、また6月19日には「市民と野党 意見交換のつどい」を実施しました。市民と野党の共闘を強め、9年続いた安倍・菅政権に、今度こそ「ノー」をつきつける選挙にしたいものです。
(鈴亀労連 吉田)

野党共闘の意義解説

上智大学教授 津でオンライン講演

秋までに予定されている総選挙で再選するためと指衆院選を前に、菅義偉政権の問題を振り返り、野党共闘の意義を再確認しようとして、上智大の中野晃一教授(政治学)によるオンライン講演が二十四日、津市一身上津部田の県総合文化センターで開かれた。中野さんは菅首相に指導力はなく、東京五輪の開催も安倍晋三・前首相の支持をとりつけて次の自民党



野党共闘による政権交代が必要だが、そのためにはジェンダー平等や外国人ら少数者の人権擁護など、野党は自民党が容認できない立場を明確に打ち出すべきだと主張。「対立軸が分かりやすくなり、支持を得られやすい」と話した。
この日は、感染防止のため、東京にいる中野さんと会場をビデオ会議システムをつないで行った。リモートも含め約四十人が参加した。(松本貴明)

がんばる地域労連

3月~6月

自治体への要請活動に各地の地域労連が活躍しました。市長・副市長・町長・副町長らが応対しました。



みえ労連はコロナ禍で窮地に陥っている介護現場を励まそうと、クラスターが発生している「鈴鹿亀山地域」「松阪地域」「伊賀名張地域」を中心に県内各地の介護事業所（通所・訪問介護）に対しFAXアンケートを実施しました（3月～6月）。現場の関心は高く50%前後の返信がありました。その中で、理事長さんや施設長さんから経営状態や働く職員の悩みなど多くの声が寄せられました。とくに浮かび上がってきたのは、「入所型の高齢者施設従事者には優先的にワクチン接種」がなされているものの、「通所・訪問介護従事者にはワクチン接種が対象外」となっており、感染リスクに怯えて介護に従事されている切実な声でした。私たちはこれらの声を届けるために、下記の自治体を訪れ、要請書を手渡し、懇談しました。懇談の様子は新聞にも載り、世論を動かす力になりました。【新家・木村】



2021年4月28日 中日新聞



鈴鹿市



亀山市

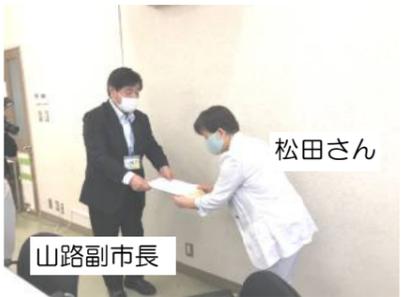


伊賀市



名張市

コロナで苦しむ介護現場の声をアンケートで集め、自治体に届けました。



松阪市



大台町



明和町



多気町

松阪の介護事業者支援を
労働組合連合など 市に要望書提出

松阪地域労働組合連合会と、松阪・多気地域社会福祉協議会は十六日、介護事業者への支援を求める要望書を松阪市へ提出した。両団体が実施したアンケートによると、市内の事業者の半分以上が新型コロナウイルス禍で減収したという。

アンケートは五百二十四日か六月四日に実施し、

松阪市では6月16日、山路茂副市長に要望書を手渡し懇談しました。ワクチンは同時接種で実施するとの回答がありました。中日新聞（6月18日）がその様子を伝えました。



四日市では6月14日、市川典子副市長と面会して要望書を提出し、翌日の中日新聞がその様子を伝えました。その後、通所・訪問介護事業の従事者にもワクチンの優先接種が始まりました。

三重版

介護従事者に優先的ワクチン接種で要望 北勢労連など四日市市に新型コロナウイルスのワクチン接種について、北勢地域労働組合連合（北勢労連）など計三団体が十四日、通所・訪問介護事業の従事者にも優先的に接種するよう四日市市に要望し、市側は、近日中に優先接種を拡大する方針を明らかにした。

市内で優先接種や通所型は対象となっていないが、利用者も感染させたり、また感染したりといった不安から従事者の離職もあつた。北勢労連、四日市社会保険推進協議会、新日本婦人の会四日市支部が要望書を出した。

北勢労連の芳野議長は、「四日市で実施されれば、他自治体にも広がっていくと期待される。ぜひ検討をお願いしたい」と求めた。

市川副市長は「コロナクラスターによる感染リスクを軽減する必要がある。従事者の優先接種の拡大を正式に発表したい」と述べた。

新型コロナウイルス要請者の病床確保、PCR検査の拡充を求める 尾鷲市長と懇談

尾鷲市では年金者組合傘妻支部と医療生協が尾鷲市長に申し入れをしました。懇談には市長、副市長、福祉保健課長が同席、地元新聞2社が取材しました。

（みえ年金者組合新聞より）

加藤市長

尾鷲市

速報 最低賃金目安 「過去最高」の28円

中央最低賃金審議会の小委員会が7月14日に地域別最低賃金の改定について過去最高の28円アップの目安を示しました。三重県にそのまま適用すれば現行の874円から902円となり、はじめて900円を突破します。しかし私たちが求める1500円にはほど遠く、今後の運動強化が求められます。

みえ労連は6月30日、7月2日、5日の三日間、東海北陸ブロックで最低賃金キャラバンに取り組みました。

- 1, 地域別最賃は、1,500円以上に引き上げて、地域間格差を是正すること。
- 2, すべての働く人に人間らしい生活を保障するために、最賃法を改正し、生計費原則に基づく「全国一律最低賃金制度」を実現すること。

など7項目の要請をしました。



6月30日、三重労働局に要請書を手渡すみえ労連白井議長

ぞくぞく届く「お礼状」

北勢労連・新婦人の会・社保協の皆様の活動、感謝いたします。ありがとうございました。

コロナ対策に取り組み、それでも「これで十分か？陽性者が出たらどうしよう」という不安を抱える期間が長くなっているの、この不安を少しでも減らすにはどうしたらいいのかと・・・。

社会的検査も協力させて頂いていますが、もし悪い結果であったらと、さらにストレスであります。

（在宅介護センター）

ワクチン接種 ありがとう

ワクチン優先接種ができるようにしていただいております。ありがとうございます。早速、希望する職員全員分の接種券を申請させていただきました。

もともと人手不足の業種ですが、コロナの影響か、昨年からの求人への応募がとて減りました。介護施設などでのクラスターが多く出たので、働こうと思う人が少なくなったのではないのでしょうか。（ヘルパーステーション・デイサービス）

こんな声も・・・

ワクチンはありがたいが、接種後39℃の高熱をおして1人夜勤をしなければならぬのは問題だ。（入所施設）

PCR検査で安心できる。しかしこんなにも頻りに受ける必要があるのか。ゆっくり休めない。（デイサービス）